

## 基本1 一本打ちの技 「正面」「小手」「胴」「突き」

双方右足から「歩み足」にて3歩前進し、「一足一刀の間合」に接した後、動作を開始する。

「正面」 「一足一刀の間合」に接した後、「面（メン）」の掛け声とともに元立ちの正面を打つ。

### 元立ち

### 掛り手

①打つ機会の与え方は、剣先をやや右に開く。

ア. 合気で打つべき機会をつくり、正確に打たせる。

イ. 姿勢を崩したり剣先を下げたりしない。

②面を打たせたままの体勢である。

③掛り手に合わせて中段の構えとなり「一足一刀の間合」に復する。

①右足を1歩踏み出しながら大きく振りかぶって正面を打つ。

ア. 振りかぶりは両腕の間から相手の全体が見える程度とする。

イ. 振りかぶった時に剣先が両こぶしの高さより下がらないようにする。

ウ. 振りかぶりと打ちが一拍子となるようにする。

エ. 「物打」で刃筋正しく正面を打つ。

オ. 正面を打った時の左こぶしは鳩尾（みずおち）の高さあたりに納める。

カ. 踏み込むと同時に左足を素早く引き付ける。

キ. 動作は腰から始動する。

②打った後、1歩後退して中段の構えとなり残心を示す。

・残心は十分な気位（自信から発する威力、威風）を示しながら相手の反撃に対応できる身構え気構えで行う。

③更に1歩後退して、「一足一刀の間合」に復する。

<p>「小手」 「一足一刀の間合」から「小手（コテ）」の掛け声とともに元立ちの小手を打つ。</p>	
<p>元立ち</p>	<p>掛り手</p>
<p>①打つ機会の与え方は、剣先をやや上に上げる。 ・極端に剣先を左に開かないようにする。</p> <p>②小手を打たせたままの体勢である。</p> <p>③掛り手に合わせて中段の構えとなり「一足一刀の間合」に復する。</p>	<p>①右足を1歩踏み出しながら振りかぶり小手を打つ。 ア. 振りかぶりは両腕の間から相手の右小手が見える程度とする。 イ. 振りかぶりと打ちが一拍子となるようにする。 ウ. 手先だけでなく身体全体で打つ。 エ. 目付は小手に注視せず相手の全体を見るようにする。 オ. 面打ちと小手打ちとでは踏み出す距離が異なることを理解する。</p> <p>②打った後、1歩後退して残心を示す。</p> <p>③更に1歩後退して、「一足一刀の間合」に復する。</p>

<p>「胴」 「一足一刀の間合」から「胴（ドウ）」の掛け声とともに元立ちの「胴（右胴）」を打つ。</p>	
<p>元立ち</p>	<p>掛り手</p>
<p>①打つ機会の与え方は手元を上げる。 ・振りかぶる要領は、手元をまっすぐに大きく上げる。</p> <p>②胴を打たせたままの体勢である。</p> <p>③掛り手に合わせて中段の構えとなり「一足一刀の間合」に復する。</p>	<p>①右足を1歩踏み出しながら大きく振りかぶって頭上で手を返し、相手に正対して右胴を打つ。 ア. 振りかぶりから胴打ちまでの動作は、一拍子である。 イ. 体を右斜め前にさばかない。 ウ. 腰を引いたり上体をねじ曲げたりしない。 エ. 打った時の左拳は正中線上に納める。 オ. 刃筋正しく打ち、平打ち（鎬で打つ）にならないようにする。</p> <p>②打った後、1歩後退して残心を示す。</p> <p>③更に1歩後退して、「一足一刀の間合」に復する。</p>

「突き」 「一足一刀の間合」から「突（ツキ）」の掛け声とともに元立ちの咽喉部を突く。

### 元立ち

①突く機会の与え方は剣先をやや右下に下げる。

ア. 1歩後退しながら突かせる。

イ. 剣先を極端に下げない。

②突かせたままの体勢である。

③掛り手に合わせて、横手あたりの交差になりながら1歩前進して元に復す。

### 掛り手

①右足から1歩踏み出して体を進め、咽喉部を突き、突いた後は直ちに手元を戻す。

ア. 突き技については、初歩の段階でその基本を理解させようとするもので、手技にならないよう意識的に腰から体を進めて突くようにする。

イ. 左足を素早く引き付けながら突く。

ウ. 突いた時の左こぶしは正中線上の下腹に納め、上がらないようにする。

エ. 刃先は下を向き、突きっぱなしにしない。

②突いた後、1歩後退して残心を示す。

③更に1歩後退して横手あたりの交差になりながら元に復す。

④動作が終わったら構えを解き、双方左足から歩み足で小さく5歩後退して立会の間合に復し、中段の構えとなる。

## 基本2 連続技（二・三段の技）「小手→面」

（註）原本は『幼少年剣道指導要領』に副って「基本2 二・三段の技（連続技）」と表記してあるが、手引きは『剣道指導要領』に副って「基本2 連続技（二・三段の技）」と表記した。

双方右足から「歩み足」にて3歩前進し、「一足一刀の間合」に接した後、動作を開始する。

元立ち	掛り手
<p>①剣先をやや上に上げて右小手を打たせる。</p> <p>②左足から1歩後退しながら剣先をやや右に開いて正面を打たせる。 ・剣先を下げて開かないようにする。</p> <p>③面を打たせたままの体勢である。</p> <p>④掛り手に合わせて中段の構えとなり「一足一刀の間合」になる。</p> <p>⑤掛り手に合わせて1歩前進し元に復する。</p>	<p>①右足を一步踏み出しながら振りかぶって右小手を打つ。 ア. 小手に目に移りやすいので、相手の目を見ながら打つようにする。 イ. 小手打ちの後は、剣先を相手の正中線から外さないようにする。 ウ. 左足を素早く引き付ける。</p> <p>②相手の退くところを更に右足を1歩踏み出して正面を打つ。 ・小手を打った勢いを利用して素早く振り上げ、一拍子で正面を打つようにする。</p> <p>③打った後、1歩後退して残心を示す。</p> <p>④更に1歩後退して、「一足一刀の間合」になる。</p> <p>⑤1歩後退して横手あたりの交差になりながら元に復する。</p>
<p>⑥動作が終わったら構えを解き、双方左足から歩み足で小さく5歩後退して立会の間合に復し、中段の構えとなる。</p>	

### 基本3 払い技「払い面(表)」

双方右足から「歩み足」にて3歩前進し、「一足一刀の間合」に接した後、動作を開始する。

#### 元立ち

①木刀を払い上げられて中段の構えが崩れる。

②払われたままの体勢である。

③掛り手に合わせて元に復する。

#### 掛り手

①右足を1歩踏み出しながら、表鑓(左鑓)を使って払い上げて相手の構えを崩し、そのまま正面を打つ。

ア. 半円を描く気持ちで、払い上げ、払いと打ちが一拍子になるようにする。

イ. 手先だけで払いがちになるので、右足を踏み出しながら払うようにする。

②打った後、1歩後退して残心を示す。

③更に1歩後退して元に復する。

④動作が終わったら構えを解き、双方左足から歩み足で小さく5歩後退して立会の間合に復し、中段の構えとなる。

## 基本4 引き技 「引き胴（右胴）」

双方右足から「歩み足」にて3歩前進し、「一足一刀の間合」に接した後、動作を開始する。

元立ち	掛り手
<p>①その場で両手を伸ばして表鑷（左鑷）で応じる。 ア. 刃部で受け止めないようにする。 イ. 相手の木刀を表鑷（左鑷）で「すり上げる」要領で迎え、その場で応じる。</p>	<p>①右足を1歩踏み出しながら正面を打つ。</p>
<p>②双方やや前進して鑷ぜり合いとなる。鑷ぜり合いは木刀を少し右斜めにして手元を下げ、下腹部に力を入れて自分の体の中心を確実に保つようにする。鑷と鑷でせり合って攻撃の機会をつくる。</p>	
<p>③反発して押し返す（押し上げる）。  ④手元が上がる。  ⑤打たれたままの体勢である。</p>	<p>③相手の鑷元を押し下げる。  ④手元が上がる反動を利用して、左足を退きながら振りかぶり、右足を引き付けると同時に右胴を打つ。 ・手元が上がった機会を捉え、体勢を崩さず刃筋正しく右胴を打つ。  ⑤打った後、1歩後退して残心を示す。</p>
<p>⑥双方1歩後退して元に復する。  ⑦動作が終わったら構えを解き、双方左足から歩み足で小さく5歩後退して立会の間合に復し、中段の構えとなる。</p>	

## 基本5 抜き技 「面抜き胴（右胴）」

双方右足から「歩み足」にて3歩前進し、「一足一刀の間合」に接した後、動作を開始する。

### 元立ち

### 掛り手

①右足を1歩踏み出しながら正面を打つ。

- ア. 目付は相手から外さない。
- イ. 面を打ったままの体勢である。

①右足をやや右斜め前に出しながら振りかぶり右胴を打つ。

- ア. 足さばきは「送り足」で行い、抜きと打ちが一連の動作となるようにする。
- イ. 左手は正中線上から外さずに刃筋正しく右胴を打つ。
- ウ. 目付は相手から外さない。
- エ. 右胴を打った体勢である。

②打った後、双方とも正対しながら1歩後退し、掛り手は残心を示す。「一足一刀の間合」くらいの交差が適当である。

③その後、双方とも左に移動して元に復する。一步で元に戻らなくてもよい。

④動作が終わったら構えを解き、双方左足から歩み足で小さく5歩後退して立会の間合に復し、中段の構えとなる。

## 基本6 すり上げ技 「小手すり上げ面（裏）」

双方右足から「歩み足」にて3歩前進し、「一足一刀の間合」に接した後、動作を開始する。

### 元立ち

### 掛り手

- ①右足を1歩踏み出しながら右小手を打つ。  
ア. 右小手を刃筋正しく打つ。  
イ. すり上げられたら手の内を緩め、剣先は自然に体側から外れる。

- ②正面を打たれた後、同時に掛り手に合わせて、中段の構えになりながら一歩後退して元に復す。

- ①左足から1歩後退しながら裏鑓（右鑓）ですり上げ、すかさず右足から1歩踏み出して正面を打つ。  
ア. 足さばきを正確にして腰を引かない（姿勢を崩さない）ようにする。  
イ. 「物打」あたりの鑓で半円を描くようにすり上げる。  
ウ. すり上げと正面打ちが一連の動作となるようにする。

- ②打った後、残心を示しつつ、一歩後退して元に復す。

- ③動作が終わったら構えを解き、双方左足から「歩み足」にて小さく5歩後退して立会の間合に復し、中段の構えとなる。

## 基本7 出ばな技 「出ばな小手」

(註)「基本7 出ばな技」は、「応じ技」の中に配列されているが、これは技の難易度を考慮して、技およびその構成の7番目に配列されたものである。「出ばな技」は、技の分類としては「しかけ技」に分類されるものである。

双方右足から「歩み足」にて3歩前進し、「一足一刀の間合」に接した後、動作を開始する。

### 元立ち

- ①右足をやや前に出しながら打ち込もうとして剣先を上げようとする。  
・合気となり、鋭く打ち込もうとする気迫が大切である。
- ②打とうとしたままの体勢である。
- ③右足を退き掛り手に合わせて元に復する。

### 掛り手

- ①「起こり頭」を捉え、右足から1歩踏み出しながら小技で素早く鋭く小手を打つ。  
・一瞬の機会を逃さないように姿勢を崩さず身体全体で鋭く打つ。
- ②打った後、1歩後退して残心を示す。
- ③更に1歩後退して元に復する。

- ④動作が終わったら構えを解き、双方左足から「歩み足」にて小さく5歩後退して立会の間合に復し、中段の構えとなる。

## 基本8 返し技 「面返し胴（右胴）」

双方右足から「歩み足」にて3歩前進し、「一足一刀の間合」に接した後、動作を開始する。

元立ち	掛り手
<p>①右足を1歩踏み出しながら正面を打つ。                      ア. 目付は相手から外さない。                      イ. 正面を打ったままの体勢である。</p>	<p>①右足をやや右斜め前に出しながら表鑓（左鑓）で迎えるように応じ、すかさず手を返して右斜め前に出ながら右胴を打つ。                      ア. すり上げる要領で応じ、応じと返して打つのが一拍子になるようにする。                      イ. 左手は正中線から外さずに「送り足」で刃筋正しく打つ。                      ウ. 目付は相手から外さない。                      エ. 右胴を打った体勢である。</p>
<p>②打った後、双方とも正対しながら1歩後退し、掛り手は残心を示す。「一足一刀の間合」くらいの交差が適当である。</p> <p>③その後、双方とも左に移動して元に復する。一步で元に戻らなくてもよい。</p> <p>④動作が終わったら構えを解き、双方左足から「歩み足」にて小さく5歩後退して立会の間合に復し、中段の構えとなる。</p>	

## 基本9 打ち落とし技「胴（右胴）打ち落とし面」

双方右足から「歩み足」にて3歩前進し、「一足一刀の間合」に接した後、動作を開始する。

### 元立ち

### 掛り手

- ①右足を1歩踏み出しながら右胴を打つ。  
ア. まっすぐ振りかぶり、刃筋正しく右胴を打つ。  
イ. 目付は相手から外さない。

- ①左足からやや左斜め後ろにさばくと同時に、刃部の「物打」付近で斜め右下方向に打ち落とし、すかさず右足を踏み出して正面を打つ。  
ア. 滑らかな足さばきで鋭く打ち落とし、すかさず間合を勘案しながら正面を打つ。  
イ. 打ち落としと正面打ちが一拍子になるようにする。  
ウ. 打ち落とす時、相手から目を離さない。

- ②双方とも正対しながら1歩後退し、掛り手は残心を示す。「一足一刀の間合」くらいの交差が適当である。

- ③その後、双方とも右に移動して元に復する。一歩で元に戻らなくてもよい。